

しはいたけ属 *Hirschioporus* DONK.

東亞産さるのこしかけ科 (其二)

今 關 六 也

IMAZEKI-R.: The Genus *Hirschioporus* DONK.—Polyporaceae of Eastern Asia (II).

I. 屬ノ來歴

さるのこしかけ科ノ中ニしはいたけヲ中心トシ極メテ密接ナ類縁ヲ示ス自然的ナ一群ガアル。即チしはいたけ *Hirschioporus abietinus*, うすばしはいたけ *H. fusco-violaceus*, えぞしはいたけ *H. abietis* 及ビしらげたけ *H. versatilis* ノ4種カラナルしはいたけ属 *Hirschioporus* DONK ノ一群デアル。本屬ハ1933年 *H. abietinus*ヲ基本種トシテ創設サレ、最初ハしはいたけ、うすばしはいたけノ2種ヲ含ムダケデアツタガ、1941年ニ BONDARZEW 及ビ SINGER ガ是ヲ確認スルニ際シテ *Polystictus targamensis* FR. ト *P. subchartaceus* (MURR.) ノ2種ヲ追加シ、屬ノ性格ニ若干ノ訂正ヲ加ヘタ。然シ筆者ハ1943年本屬ヲ採用スルニ當ツテ再ビコレヲ DONK ノ原意ニモドシ、BONDARZEW 及ビ SINGER ガ新タニ編入シタ兩菌ヲ除キ、別ニ *Lenzites abietis* LLOYD ヲ加ヘ、今回更ニ *Trametes versatilis* BERK. ヲ加ヘルコトニシタ。コノ間ニ於ケル屬ノ解釋ノ變化ヲ略述スルト次ノ如クデアル。

DONK ハ本屬ヲ Trib. *Tyromycetaceae* ニオキえびうらたけ属 *Gloeoporus* ニ近縁ナルモノトシタ。而シテ“傘ノ肉ハ2重ノ層ヲナシ、上層ハ稍、厚イ毛被層、下層ハ稍、蠟質乃至膠質ヲオビ、薄クテ柔軟強韌デアルガ乾ケバ硬イ軟骨質トナル、子實層托ハ管孔狀、齒牙狀乃至櫛狀ヲナシ極メテ不定、子實層ニハ短小ナル紡錘形ノ囊狀體ガアル”等ヲ主要ナ特徴トシタ。而シテ從來しはいたけト極メテ密接ナ關係ニアルト考ヘラレテ居タはかはらたけ *Polystictus (Coriolus) targamensis* ハ傘ノ肉ガ全ク均等ヲ革質テ蠟質乃至軟骨質ヲオビナイコトデしはいたけ属トハ關係ガナイト特ニ斷ハツタ。

是ニ對シ BONDARZEW 及ビ SINGER ハ本屬ヲ Subfam. *Corioloidae* ニオキ、本屬ノミカラナル Trib. *Hirschioporeae* ヲ設ケタ。而シテ DONK ガ強調シタ蠟質乃至軟骨質ナル傘ノ肉ヲ有スルトノ點ヲ全ク無視シ、子實層托ノ形狀色彩、囊狀體ノ存在等ニ重キヲオイタ。是ニヨツテ DONK ガ特ニ除外シタ前

記 *Coriolus parvulus* 等ヲ本属ニ編入セシメタノデアル。

筆者ハ前述ノ如ク DONK ノ原解釋ヲ妥當トシ大略ソノ説ニ從ツタガ、*Gloeo-porus* トハ關係ナキモノト考ヘ、Trib. Polyporeae 中ノ Subtrib. Coriolinae = 所屬セシメタ。コノ點ハ BONDARZEW 及ビ SINGER ノ處置ニ一致スル。然シ筆者ノ見解ニハ尙不當ノ點ガアツタノデ是ヲ訂正シタイ。

II. 屬ノ形態

(イ) 傘ノ肉及ビ子實層托ノ實質ニ就テ。前記ノ如ク本属ノ子實體ハ蠟質乃至膠質ヲオビ、乾燥スルト稍、軟骨質トナルコトハ最モ重要ナ屬的表徵ノ一デアル。然シ DONK ガ記シタ如キ傘ノ肉ガ異質ノ 2 層カラナルトノ解釋ハ

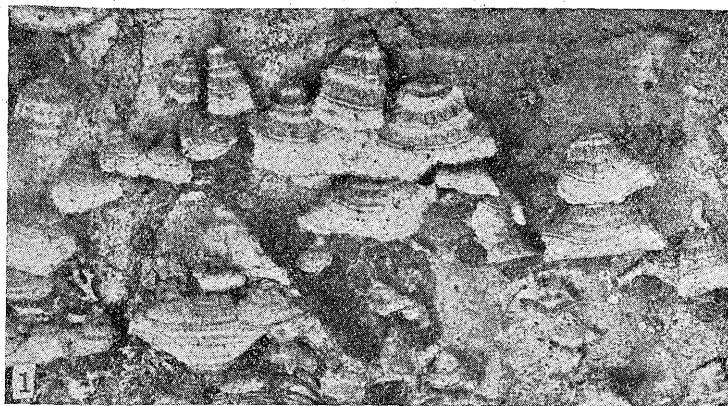


Fig. 1. *H. abietinus* (樺太產) ×1.



Fig. 2. *H. fusco-violaceus* (樺太產) ×1.

不當デ、彼ガ云フ上層トハ他ノ屬ニモ多イ毛被 (Superficial tomentum) デアリ是ヲ傘ノ肉ノ一部ト見ナスベキデハナイ。又筆者ハ前著ニ於テ傘ノ肉ハ子實層托ト異質デアルト記シタガ是ハ誤リデ“等質”ト訂正スベキデアル。是等兩部ヲ構成スル菌絲ハ形態ニ變化ナク、一ハ放射狀ニ殆ド並列シ、子實層托デハ管壁ニ並行シテ配列スルモノデ本質的ナ差異ハ認メラレナイ。コノ點本屬ガかはらたけ属 (*Coriolus*) =近イコトヲ示スモノデアル。實質及ビ傘ノ肉ガ蠟質乃至膠質ヲオビルコトハしはいたけ以下3種デハ顯著デアリ、乾

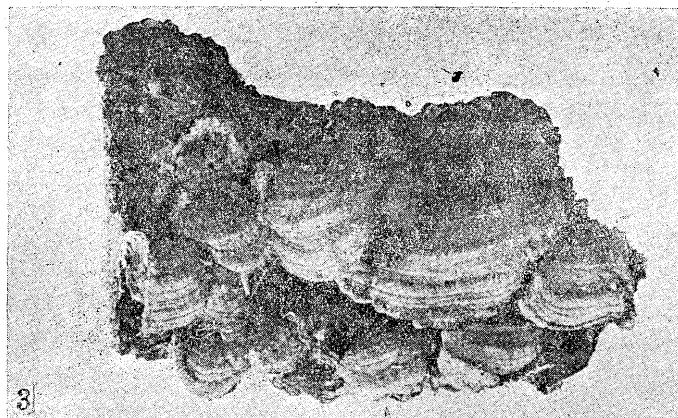
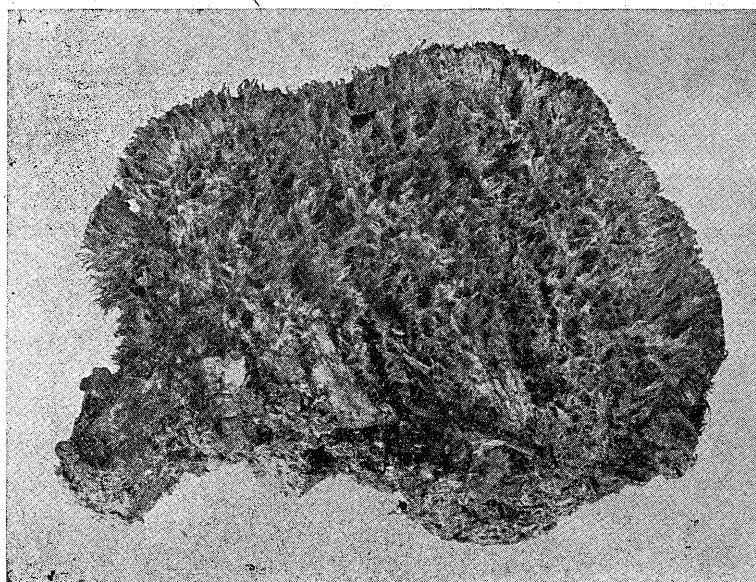


Fig. 3. *H. abietis* (樺太産) $\times 1$.

燥品デハ硬クテ剃刀ノ刃ヲ傷メル位デアル。然シ顯微鏡下デ組成菌絲ガ比較的明瞭ニ識別シ得ラレルコトカラ、菌絲間ニ強固ナ膠着ハナク、從ツテ膠状物質ハ菌絲外ニ分泌サレルモノデハナイト考ヘラレル。

一方しらげたけデハコノ膠質性ガ往々認メラレナイ。特ニ本州ノ如キ該種ノ分布ノ北方區域ニ産スルモノニコノ傾向ガ多イガ、臺灣、比島ノ如キ南方産ノモノデハ充分ニコノ特性即チ膠質性ヲアラハシテ居ル。

(ロ) 傘面ノ毛被ニ就テ。本屬デハ常ニ傘面ニ顯著ナ毛被ヲ有スル。コノ毛ハ單一ノモノデハナク若干ヅツ膠着シテ精荒ナ東毛ヲナシテ居ル。最モ著大ナノハしらげたけデ、東毛ノ長サ5mm餘リニモ達シ著シク粗荒ナ外觀ヲ呈スル。他ノ3菌デハ短カク形狀ハ互ニ大同小異デアルガ、中デハうすばしはいたけノモノガ概シテ長ク疎生シ、しはいたけガ是ニツギ、えぞしはいたけデハ短小(0.5mm位)ニ密生シ、他ノ菌デハ稍ニ斜上性デアルノニ對シテ稍、

Fig. 4. *H. versatilis* (埼玉縣產) $\times 1$.

直立性デアル。

(ハ) 子實層托ノ形狀。子實層托ハ孔狀・齒牙狀・櫛狀等極メテ不定デアルガ、何レモ生時淡紅紫色、淡紫色等ノ如キ比較的鮮カナ色彩ヲオビル。但シ乾燥スルト次第ニ褪色シ、又暗紫褐色ヲ呈スルニ至ル。カハル色彩上ノ共通性ハ本屬ノ副的表徵トナルモノデアル。

子實層托ノ形態ガ極メテ不定ナルハ本屬ニ於テ特ニ著シク、若シ是ヲ FRIES 式ノ舊分類ニ從フ *Polystictus (abietinus)*, *Irpea (fusco-violaceus)*, *Lenzites (abietis)*, *Trametes* 又ハ *Polystictus (versatilis)* ノ如ク 4 乃至 3 屬ニ配分サレルコトニナル。コノ事實ハ子實層托ノ外形ガ屬的表徵トシテ如何ニ無價値ナルカヲ實證スル好例ヲ提供スルモノデアル、又 FRIES 式ノ屬ノ分ケ方ガ自然ノ類縁關係ヲ示スノニ極メテ不都合デアルコトヲ示スモノデアル。

(ニ) 囊狀體ニ就テ。本屬ノ重要表徵ノ一つトシテ囊狀體ノ存在ガアゲラレル。然シ是等ノ諸菌ガ持ツ囊狀體ハ極メテ短小デ、菌絲ノ先端部ガ僅カニ紡錘形ニ肥厚シタ程度デアリ、餘リ分化ノ進ンダモノデハナイ。往々囊狀體ノ先端ニハ結晶ガ付着スル。

(ホ) 胞子。胞子ハ長橢圓形デ一方ニ多少灣曲シ、基部ノ一側ニカタヨツ

テ小嘴ガアル。大サハ 6
~8×2~3 μ 位、無色、平
滑デアリ、少クトモ本邦
産ノモノデハ形狀大サ等
ガ略、一様 デアリ、種ヲ
分ツ特徵ニハナラナイ。

III. 屬ノ生態

(イ) 寄主。しはいたけ以下 3 種ハ針葉樹生デ
アリ、しらげたけハ通常
闊葉樹生デアル。しはいたけ
トうすばしはいたけトハ從來混同スル傾向ガ
アルガ、前述ノ如ク傘面
ノ毛被ノ形狀、子實層托
ノ形狀等ニヨリ區別サレ
ルノミナラズ、寄主ノ選
擇性ニモ若干ノ相違ガア
ル様デアル。矢澤龜吉氏
ガ樺太デえぞまつ (*Picea jezoensis*) トとどまつ
(*Abies sachalinensis*) ノ枯
損木ノ腐朽調査ヲナシタ
報告ニヨルト、しはいた

けハえぞまつニ、うすばしはいたけハとどまつニ多ク發生シ、反對ノ場合ハ少
ナイト云フ。數字的ニ是ヲ示スト、とどまつ 74 本中ソノ全部ニうすばしは
いたけガ發生シ、ソノ中 14 本ニハしはいたけモ混生シタガ、しはいたけダ
ケニ侵サレタとどまつハ 1 本モナカツタ。是ニ對シテえぞまつデハ 54 本中
40 本 (74.1%) =しはいたけノミガ發生シ、12 本ニハ兩菌が混生シ、2 本ニ
うすばしはいたけダケガ發生シタ。コノ事實ハ分類學者ニ注目スペキ示唆ニ
與ヘルモノト云ヘヤウ。矢澤博士ノ觀察ハ筆者モ亦樺太、北海道ニ於テ實地
ニ確カメルコトガ出來タ。本州デハ しはいたけハ殆ド常ニまつ屬ニ發生シ、
うすばしはいたけハもみ屬等ニ多イ (まつニモ出ル) 様デアル (續ク)。

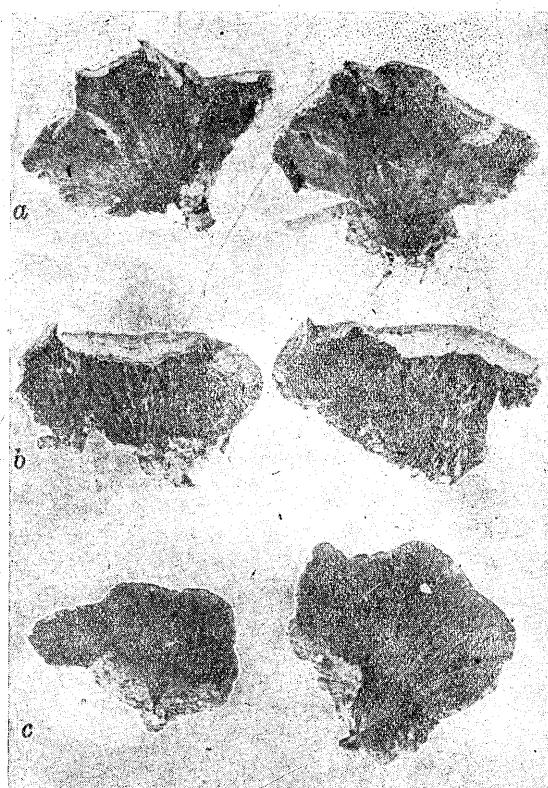


Fig. 5. 子實層托ノ形態。

a, *H. abietinus* (孔狀). b, *H. fusco-violaceus* (齒牙狀).
c, *H. abietis* (櫛狀) ×1.